

1 奄美の道で生き物みつけた



- ① 松橋利光/写真
木元侑菜/文
- ② 新日本出版社
- ③ 1500円
- ④ E

奄美大島の道を歩いてみると、たくさんの貴重な生きものに出会えます。飛び出してくる「アマミトゲネズミ」や、トイレに出てくる「アマミシカワガエル」、自動販売機にはりついている「ハロウエルアマガエル」など他にもたくさん。さあ一緒に、奄美の生き物たちに会いに行く旅に出発しよう！

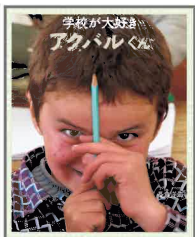
2 うみといきる



- ① ふくい てる/作
いとう 良一/絵
- ② 金の星社
- ③ 1300円
- ④ E

美しく、大きな恵みをもたらしてくれる海は私たちにとって身近な存在です。しかし、時に津波という脅威をもたらします。その時のために、私たちはどのように備えておけばよいのでしょうか。世代を超えて伝えていきたいメッセージです。

3 学校が大好きアクバルくん



- ① 長倉洋海/著
- ② アリス館
- ③ 1400円
- ④ E

アフガニスタンの山の中の学校。みんな明るく真剣に学んでいます。その中でも一本の鉛筆を大事そうにしてノートをとっている一年生のアクバルくんは印象的。恵まれない環境の中でも未来に飛び立とうとしている子供たちがいることがよく分かる一冊です。

4 きつねの窓



- ① 安房直子/作
いもとようこ/絵
- ② 金の星社
- ③ 1400円
- ④ E

青いききょうの花畑で子ぎつねに出会ったぼく。子ぎつねの青く染めた指で作ったひし形の窓から見えたものは鉄砲で撃たれてなくなった母ぎつねでした。ぼくの青い指の窓からは昔好きだった女の子が。いつまでも大切にしたいと思ったのに、うっかり洗ってしまったぼくの指。不思議で、もの悲しいお話です。

5 木は何を見てきたの？



- ① シャーロット・ギラン/文
サム・アッシャー/絵
高部圭司/訳
- ② 化学同人
- ③ 1900円
- ④ E

何百年も生きてきた老木のならのき。ならのき自身もどんぐりから老木になるまで歴史を繰り返しますが、目を見張る世界の変化もずっと見てきました。わたしたちの周りにもこれまでにどんな出来事があって、今があるのか考えてみたいと思わせてくれます。

6 きょうはおかねがないひ



- ① ケイト・ミルナー/作
こでら あつこ/訳
- ② 合同出版
- ③ 1600円
- ④ E

ママはいつも一生懸命に働いています。それでも、今日は親切な人の力を借りて、フードバンクへ行く日。あれも食べたいし、こんなものもほしいけど……。

生きていくためにお金は大事です。しかし、もっと大事なことがあることを教えてくれる一冊です。

7 せかいでさいしょにズボンをはいた女の子



- ① キース・ネグレー/作
石井睦美/訳
- ② 光村教育図書
- ③ 1500円
- ④ E

昔々と言っても150年くらい前、ズボンは男の子のはくものでした。メアリーは、ズボンが男の子に限定されることに疑問をもち、スカートやドレスよりどんなに活動的で素敵かを実践しました。メアリーのおかげで現在ズボンは男女を問わず愛用されています。

8 ぼくは川のように話す



- ① ジョーダン・スコット/文
シドニー・スミス/絵
原田勝/訳
- ② 偕成社
- ③ 1600円
- ④ E

ぼくには、うまく言えない音があります。流ちょうに話すことは難しくて、みんなに笑われてしまいます。でも、お父さんはぼくの話し方を川のようにと言いました。吃音があっても、気負わず、たゆまず流れる川のように。

自分と向き合う勇気をもらえる一冊です。

9 みどりのあらし



- ① 高山なおみ/作
中野真典/絵
- ② 岩崎書店
- ③ 1600円
- ④ E

ゆうすけ君にいつもいじめられているぼく。いつものように机をけられた学校の帰り道、緑の嵐の中でゆうすけ君が誰かにいじめられている夢を見ました。いつもいじめられているのにぼくはゆうすけ君を助けます。

迫力のある絵に、力をもらえる一冊です。

10 みどりバアバ



- ① ねじめ正一/作
下田昌克/絵
- ② 童心社
- ③ 1400円
- ④ E

みどりバアバはお花が大好きで、コロケづくりが得意です。でも、みどりバアバは入院して、帰ってきませんでした。親しい人が亡くなることはとても悲しいことです。

親しい人との思い出が自分を強く大きくしてくれることを教えてくれる一冊です。

11 みんなとおなじくできないよ



- ① 湯浅正太/作
石井聖岳/絵
- ② 日本図書センター
- ③ 1600円
- ④ E

ぼくにはかわいい、でも、ちょっとかわった弟がいます。弟はときどき、悲しい目でいます。「みんなとおなじくできないよ」と。そのたびに、ぼくはどうしてあげればよかったんだろうと考えて、ぼくの心はぐちゃぐちゃになります。

そんなときこそありのままにすることが大事だということを教えてくれる一冊です。

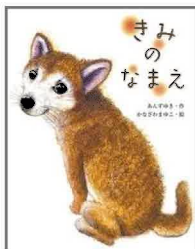
12 わたしたちの森



- ① ジアナ・マリノ/作
小手毬るい/訳
- ② ポプラ社
- ③ 1600円
- ④ E

森で起こった火事は木々を焼き、動物たちも煙に包まれました。すべてが失われたかと思われましたが、彼らは新しい芽を出した森で再び暮らし始めます。動物たちはたったひとつの大切な家に戻ってきたのです。地球もあらゆる生き物にとってたったひとつの家。大切に守っていかなければならないことを教えてくれる一冊です。

13 きみのなまえ



- ① あんずゆき/作
かなざわまゆこ/絵
- ② 佼成出版社
- ③ 1200円
- ④ 91ア021

ぼくとお母さんは、いつも一匹で公園にいる犬を飼うことを決心しました。最初はなかなかつきませんでした。ようやく一緒に散歩できるようになったとき、ぼくとお母さんはこの犬の秘密を知って驚きました。

どんなに孤独そうに見えても、決して一人ではないことに気付かせてくれる一冊です。

14 つくしちゃんとおねえちゃん



- ① いとうみく/作
丹地陽子/絵
- ② 福音館書店
- ③ 1200円
- ④ 91イ021

お姉ちゃんは、ちょっといばりんぼうだし、いじわるだし、おこりっぽい。でも、負けずらいで誰よりも努力していて、もの知りで、ピアノが上手で、とっても優しいことをつくしちゃんは知っています。

姉妹の絆を感じる一冊です。

15 ねこのふくびき



- ① 木内南緒/作
よしむらめぐ/絵
- ② 岩崎書店
- ③ 1100円
- ④ 91キ021

みゆちゃんは小学1年生。ある日、家で飼っていた猫のルークが、「ねこのふくびき」にあたり、人間の姿になってやってきて、一緒に学校に行くことになりました。でも、ルークは猫なので、それはもう大変。でも、みゆちゃんは、もっともっと大事なことに気付くことができました。ペットや家族のすばらしさに気付ける一冊です。